

## アマダイ通信 NO.39

(Tile fish network letter)

03年菊の花の季節に

### 知人・友人各位

“我が家の”小平用水の土手には菊やコスモスが咲き誇り、朝から小鳥が賑やかにさえずります。選挙カーが走り回り、候補者が喉を嚔らして叫ぶ選挙が終われば自衛隊が派遣される、イラクでの米軍の犠牲者は戦争前のそれを超え戦闘は泥沼化し、アフガニスタンの戦火も止みません。中東のテロの応酬の犠牲も増え、その先のアフリカの人々が飢えと内戦、エイズによる死の恐怖から開放される展望もないまま今年も暮れんとしています。世界中の人々が花を愛で、小鳥の音楽を楽しむ日の来ることを祈念し、39号を送ります。

### 励ます会に本人が出られない！

大学の三鷹の寮で1年下の辻 恵君が大阪3区から衆議院議員選挙に出るので、事務所を住所に東京後援会を作り、10月8日に東京での励ます会を設定するが、民主党の公認決定が出ない。時間だけが過ぎ、辻君も銀座の事務所で弁護士稼業に忙しい。民主党と自由党の合併で調整に手間取り、10月に入りようやく公認となる。いよいよ本格稼働だが日にちが足りない。励ます会は4回目の化学療法から退院予定の16日に延ばす。

先ず封筒と案内状の原稿を作り印刷屋に発注、名簿を集め発送の手配をする。3千通は連休前の10日までに発送するが、残り2千は連休明けの13日以降になるが仕方ない。カンパだけの人もいるので告知はしなくては。民主党の菅代表や、鳩山由紀夫、小沢一郎他、国会議員の先生方に挨拶をお願いするが、選挙区での応援で時間を貰えない。選挙区なら票になるが、東京の励ます会では直接票にならない。東京選出の衆議院議員や参議院議員に期待するが駄目で、辛うじて東京選出の小川敏夫参議院議員が応援に駆けつけ、上田清埼玉県知事も祝電をくれるという。辻君の大阪の大手前高校同期の芥川賞作家三田誠広さんも応援に来ることに。これでどうにか入院できる。

これまでと同じように10月11日の第二土曜日の朝に三楽病院に入院。直ぐ血液検査をしてもらい、昼過ぎからさっそく抗癌剤の点滴を始める。の経験からするとイベントの参加者は催しの性格にもよるが大体、告知した人数の1~3%、普通は1.5%ほど。今回は意外性もあるが時間が足りない。大きい会場がスカスカでは意気が上がらない。狭い会場にギュウギュウ詰めの方がいい。それに赤字は絶対避けなければ。弱気になって少し狭い部屋に変更。会場に吊るす看板も知合いに頼み節約、食べに来る訳ではないからと食事の数も減らし、点滴のチューブを引きずりながらあちこち電話して応援を頼む。

ところが当の辻君が選挙区に入ったきり、東京には出て来れない、当日は選挙区で五つも集会が入ったという。選挙区で有権者に訴えた方が票につながるが、準備不足の上に本人が出席できないとは！今更止める訳にも行かない。心苦しいが本人不在は当日まで伏せてビデオで参加してもらい、奥さんを代役に立て、それだけ本人も頑張っているということで許してもらおう。当日、ナースに点滴の速度を調節してもらい1時間ほど早めに退院。事務所で最後の準備をして学生会館に駆けつける。出足が悪いが6時半の開会時間には大手前高校や三鷹寮のOB、大学の友人、辻弁護士のクライアントで立錐の余地のないほどだ。ほやほやの三鷹寮OBで法学部3年の石塚君も受け付けを手伝ったりしている。イベント屋？の危惧を吹き飛ばし、本人不在の励ます会は大いに盛り上がる。

## マニフェストで変わるか？日本政治！

総選挙も佳境に入り、テレビでも盛んに党首討論が展開され、争点がわかりやすい選挙になっている感じがします。これも民主党がマニフェストで挑み、小泉首相が渋々ながらとはいえ受けて立っているからでしょうか。都市部での民主党の伸張を受け、小泉首相も自民党の改革、自民党による改革、官僚支配の打破を訴え都市部での集票を目論みますが、相変わらず地方の自民党候補は公共事業による利益誘導型の政策を訴え、小泉改革の背後で財政改善優先の財務省支配が進みます。

他方、民主党も票を減らすかも知れない消費税アップを2%の持続的経済成長と行財政改革の前提つきとはいえ敢えて打ち出し、政権担当能力をアピールしています。4割以上が脱落している国民年金を中心に、崩壊してしまった国民皆年金制度の建て直しには、欧米では10数%超が当たり前の消費税を値上げし、基礎年金に当てる。その際食料への低率課税、所得税・相続税の累進税率強化等とセットですが、その分保険料は減った上で、基礎年金は国民全員に保障されます。社会保険料も名前を変えた税金です。

高速道路の無料化も画期的です。欧米のフリーウェイは無料が当たり前です。無料化で料金所不要となり料金所渋滞も料金徴収費用も消え、もっと出入り口を作って便利にできます。高速道路の40兆円の借金をどうすると自民党は言うが、無駄な道路作りを止めて毎年9兆円ある道路特定財源の一部をその返済に回せば、2兆円ずつ返して20年でなくなります。利権の塊のサービスエリアの飲食店や物販店の営業権を入札で売却する、出入り口近くにホテルやショッピングモールを作り収益を上げることも可能です。その上で7兆円も道路の建設・維持に使えれば十分ではないか。小泉総理の言うように民営化すると、旧国鉄の債務を最後は税金で処理したように、借金を税金で返して身軽になった民営化会社だけが儲かり、国民は永久に料金を払い続けるという馬鹿を見ます。無料化すると高速道路の利用者だけが得をすると言うが、車を持っていけば高速は利用するし、持っていないとも宅配便、コンビニ、スーパー、パックツアー等を利用することで間接的に国民の誰もが高速道路を利用しています。首相は語らないが、無料化で一番問題なのは道路交通がコスト競争力を増し、エネルギーコストと環境負荷の少ない鉄道交通、水上交通等の競争力が低下することです。そのためにはこの機会に、交通関係の税金が重くなるというなら他の関係諸税を減税してでも炭素税を導入し、エネルギーコストと環境負荷のより少ない交通体系を構築すれば、一石二鳥の策です。

次にマニフェストを具体化する実行力ですが、菅さんに軍配を上げたい。小泉さんが首相になって2年にもなるのに、目玉公約の道路公団民営化は入り口でもたつき、藤井総裁の解任で醜態を晒した上、民営化の不合理も明らかだ。もう一つの目玉の郵政民営化も公社化の先がはっきりしない。小泉・青木連立政権で勝利した途端、党内の熾烈なバトルが始まりそうだ。そもそもアメリカや世界銀行の援助と共に、戦後日本の貧しい時代のインフラ整備に大いに貢献し肥大化した財政投融资制度が、高度成長を経てその役目を終え、非効率・民業圧迫の弊害をもたらしている。その入り口と出口の代表である二つの組織をどう改革するかが眼目なのだから、財政制度改革、金融制度改革の一環で、一体として考えていく必要があるのに、目先の組織いじりに陥ってしまっている。実行力、官僚支配の打破という点では一つだけ、橋本内閣の菅厚生大臣の前任が小泉さんだったことを指摘するだけで十分であろう。小泉厚生大臣が手をつけられなかった薬害エイズの問題を菅厚生大臣は見事に解決したことを読者諸賢はよく記憶しておられるでしょう。

## あの防波堤は何だ！

久しぶりに秋田の故郷に帰ると、目の前に大きな防波堤ができています。白神と日本海の狭間の海岸段丘の上段の、田舎の家から見下ろす位置に、赤岩と呼ぶ岩場があった。手前に冬、海苔が着きやすいようにコンクリを塗った白岩があり、浅瀬でモズクがよく採れ、潜ってサザエやアワビを採り、ヤスでアイナメを突いて遊んだ。赤岩では白岩より大きなサザエやアワビ、アイナメが採れたが、間の海は深く暗く、底から大ダコでも出てきて足を引っ張りそうで、小魚にはとても怖かった。海底は見ないようにして必死に泳ぎ赤岩に辿り着いた時、何か自分が一回り大きくなった心地がした。思い出が一杯詰まった赤岩あたりに、視界を遮る巨大なコンクリート構築物がある。岩館漁港の横の公園の先に白波が砕け散る岩場があり、平沢の家の爺さんが夕方どじょうを一匹ぶらさげて行くと、帰りはどじょうが必ずスズキに化けていた。魚もよくアイナメを釣ったが、一度だけ橙色の斑点のついた大きなハタを釣り上げ、その力にびっくりしたことがあった。その突端の岩もダイナマイトで吹っ飛び、そこからも巨大な防波堤が伸びている。

かつて文部省から出向の女性副知事を県庁に訪ねた時、秘書の方に「干場さん、岩館に新しい漁港が必要なんですか」と聞かれたが、これがあの新漁港なのだ。漁獲は減る一方なのに港だけ大きくしてどうする。5年で40億円の大プロジェクトというが、有害無益な土木構造物より、4千人の八森町民に一人百万円ずつ配る方がよほど有益だ。同じゼネコンの懐に入るにしても、深海からプランクトン豊富な湧昇流を作り魚の餌を増やす巨大漁礁を設置するとか、磯焼けの海底からサンゴ藻を駆逐し藻場を増やす、山林を手入れする、白神山地を訪れる観光客のために気の効いたホテル等の施設を造るとか、町民を豊かにする違った形の公共事業があるのではないか。一度加藤町長に迫った時、防波堤の内側で魚を養殖すると答えていたが、使えるなら是非有益に使っていただきたい。

不況だ、構造改革だと言われながら、自民党政権の下で、このような無駄な公共事業が全国津々浦々で今も堂々で行われ、それでも地方ゼネコンは潰れて行く。いやそれだからと言うべきか。最近も多少付き合いのあった福島県の大手ゼネコン瀧谷建設工業が倒産した。目黒前社長は県の建設業協会長をしていたが、次の協会長の県内最大手、佐藤工業社長は、協会挙げて介護事業に取り組むなど業態転換を図っている。農業法人を作り大規模農業に取り組むゼネコンもある。最近食道がんで急逝した新潟県最大手、全国でも中堅ゼネコンの福田組の福田実社長は、事務所を訪ねてもらったこともあるが、どう変わるべきか随分悩んでいた。この春の地方選でいずれも能代高校同期の、西村土建オーナーの能登県議が能代市長に立候補し落選、その後釜の県議に県内大手の中田潤中田建設社長が当選したが、土建屋が政治家になってお手盛り工事をする内は秋田も救われない。

この土建国家の流れを根底から変え、農業の構造改革、規模拡大と生産性の向上、山間地農業への所得保障を進め、地方分権を推進することで地方の活性化、豊かな日本の力強い復活が実現するのではないか。今回の総選挙はその絶好の機会だが、その先には改革を阻む不平等選挙がある。秋田には農林族や道路族は3人も4人も要らない。各県に一人の衆議院議員を割り当てた上で、更に人口比例で小選挙区議員を各県に割り振るという現行制度では不平等はなくなる。最少人口の島根県に一人を割り振り、単純に人口比例で小選挙区議員を各県に割り当てれば、秋田の定数は精々二人となり、土建屋の村岡兼造も、農林・道路族の野呂田芳成も議席を失うであろう。そうすれば無駄な公共事業も無くなり、税金が有効に使われ、農業の大規模化・効率化も進むと思うのだが。

### 胃や食道ではなく、大腸がんでラッキー？！

3月に大腸がんを手術。リンパ節に3箇所転移していたので、他に転移の虞ありと、月に1度入院して化学療法をすることになる。6、7、9、10月と1日5百ccの5FUを主体に、5昼夜通しで抗癌剤を点滴する化学療法を大過なく終えるが、9月の3回戦、10月の4回戦と少しずつ副作用も出て来る。野を駆け、海を潜り、スキーを担いで山々を巡り、時に書を読む。都会の受験少年には想像もつかない日々を送ることで獲得した頑健な肉体も、化学兵器に起源を持つ抗癌剤の蓄積に侵されつつあるようだ。

9月の3回戦から食欲が衰え、病院では何を食べても美味しくない。3月に手術で4週間ほど入院した時は、初めてということもあり、手術の前後は絶食するので、病院食も結構美味しいんだ、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食べられると感心した。手術前後の絶食から、重湯、お粥と段々食べられるようになると普通食が待ち遠しかったのに、9月の3回戦から食欲が衰え、何を食べても美味しくない。口の中もいがらっぽく、周りまでポッポする。口内炎にかからないように、うがい薬を使うが、退院してからも1週間近くそんな状態が続く。

10月の4回戦からは病院食の匂いを嗅ぐだけで気持ちが悪い。女性のつわりもこんなものかと思う。食道と胃の粘膜も炎症を起こしたのか、胸焼けから始まり、次に食べ物を飲み込むと食道の辺りが焼けつくように痛い。その範囲と程度が段々酷くなる。食道癌や胃癌で食道や胃を切った人が食事の時にとても苦しうだったが、こんな感じだったのかと思い至る。この状態が退院してからも4、5日続く。口の中で嚙んでいる間は美味しいのに、飲み込むと苦しい。胃や、食道ではなく、大腸の癌であったことを、幸運に思う。

### 化学療法、そして・・・

9月の入院でCT(断層撮影装置)を撮るが、他の臓器への転移は認められず、腫瘍マーカーも正常、主治医の阿川先生からも大丈夫かなと言ってもらくと、一安心すると同時に、1週間近く拘束され、副作用で多少はつらい思いをする入院は避けたい、との思いも募る。幸い、CTでは確認できない小さな癌でも発見できる検査システムのペットの普及が進み、健康保険も適用されるようになり、7万円ほどで診断が可能という。ペットで発見された小さな癌に対しては重粒子線をピンポイントで照射する効果的な治療法もあるという。ならば、CTでも腫瘍マーカーでも確認されない癌細胞、謂わばいるかいないかわからない敵に対して、部屋の外から銃を乱射するような化学療法から一歩進んで、もう少し確度の高い治療をやりたいとの思いも強まる。

三鷹寮同期の群馬県立がんセンター澤田副院長の弟子を自称する阿川先生に相談すると、やはり化学療法は予定通り5回やった方がいい、その後は定期的に検査しながら経口の抗がん剤を飲み続け、2年で再発しなければ一応治療は終了とのこと。一定期間抗癌剤が体内を巡ることで、がん細胞を叩くことができるという。毎月1週間拘束されるのは色々な意味できついが、ここまで来たのだから貫徹しよう、その後ペットの検査の紹介状を書いてもらおうということにする。ペットでも1センチ近くの大きさのがん細胞まではわかるが、それより小さいものは結局わからない。発見されれば重粒子線を照射すればいいのだが、ペットでわからない程度のがん細胞にたいしては手の打ちようがない。そんなものにまで手を打つ必要があるかという議論もあるのだろうが、リンパ節への転移があり、他への転移の虞がある以上、2年間は抗癌剤を避けて通ることはできないということなのだ。

## 小島局長を囲んで

歌手の加藤登紀子さんの姉でトキコプランニング社長の幸子さんから、6千円会費で局長就任祝いを兼ねて、環境省の小島地球環境局長を囲む会をするけどと電話が入る。太陽の会というNPOの呼び掛けで、環境関係のボランティアが表参道のトキコプランニング経営のロシア料理店、テアトロスガリー青山に集まるという。歌手も何人か来るわよという声につられた訳ではないが、大学の寮の後輩の局長就任祝いだ、緑の地球ネットワーク(GEN)の高見邦雄事務局長をはじめ数人の友人を誘い参加する。

小島君は東大の三鷹の寮で1年下で、●の次の寮委員長だ。寮委員長は半年交替で寮生の選挙で選ばれる。●の前の寮委員長が高見君。3代の寮委員長が揃い踏みという訳だが、駒場の教養学部で3、4年在籍して退学した高見君は日本と中国をさすらった末に中国に腰を据えて、黄土高原を緑化するという遠大な事業に取り組み、着々成果を上げている。他方●は高見君のようにスッパリ割り切って退学することもできず、ズルズル9年もかかってようやく卒業、おまけにもう一度同じ法学部に学士入学して、2年で今度は中退するという体たらく。結局、30まで学生、次の10年間は浪人、40歳で始めたサラリーマンも10年しか続かず、今又、営業コンサルタントと称して天下浪々の身だ。小島君も寮委員長として同じようにヘルメットを被って東大全共闘の一翼を担い活躍していたのに5年で卒業、環境庁に2期生で入庁、同期のトップを切って局長になり、環境省の事務次官も目の前だ。

会場は50~60人くらいの、余り見かけたことのない人で一杯だ。美味しいロシア料理とウオッカで盛り上がり、話が弾む。小島君の両脇には細身の清楚な感じの中年女性と、アゴヒゲと薄いサングラスの若作りの男が座っている。その横にも小柄な女性。奥さん、息子さん、娘さんだろうか。そのうち真打のオトキさんが登場、小島君のテーブルの女性を紹介する。カミさんと思ったのは「翔んでイスタンブール」の歌手、庄野真代さんで、今は大学院で環境問題を研究しているとのこと。今日は歌いませんといい、壇を降りる。次に“ロックの女王、総立ち貴子”白井貴子さんが紹介され、近くリリースする曲を伴奏なしで1曲歌う。坊ちゃんかと思ったのは歌手の原田真二さんで、ピアノを弾きながら数曲歌う。松田聖子のコンサートでピアノを弾き、新しい愛人かと騒がれているらしい。その後、オトキさんが原田さんのピアノで何曲か歌う。環境問題で環境省のキャンペーンに協力したりする、歌謡界の環境派ということか。何時の間にか、後方の一般席を仕切る分厚いカーテンも開かれ、百万本のバラを全員で大合唱。誕生会の女性グループは最高の誕生プレゼントになったと、大感動。誘った友人諸氏からも感謝された●は、東大三鷹クラブの節目のイベントで、庄野さんや白井さん、原田さんに歌ってもらえないかと、テアトロスガリー青山での次のランチタイムコンサートの実現に想いを馳せる。

## 宇宙に持って行く水はあるか？

中国が神舟5号で有人宇宙飛行を実現した、3番目の国となった。それにしても両極端な国だ。片方で有人宇宙飛行を実現するほどの技術力、経済力を誇るかと思えば、我々NPO法人「緑の地球ネットワーク」(GEN)が緑化活動を進める北京から西へ3百キロしか離れていない大同の郊外の村々では、極貧の農民が三国志の昔と同じ地べたを這うような生活をしている。いや、人力とお天気頼みの点は同じでも、今より緑があり、人口も少なく、飲む水くらいはあったという点では三国志の昔の方が良かったかも知れない。

人口150万人とも言われる大同の市街地でさえ、5階建ての集合住宅が連なる炭鉱職員の住宅でも、地下百数十メートルから地下水をくみ上げ、一日20分の時間差給水で風呂桶いっぱい百リットルを貯め、家族4人で使うのがやっとなのである。一人25リットル、日本人が水洗トイレを流す水の量が一回、12リットルほどなので、2回トイレに行くとなくなる。この量で飲用、煮炊き、洗濯、洗顔、歯磨、洗髪、清拭、トイレと全ての用を足さなければならない。ペットがいればそれにも飲ませる。

「神国日本」や、多くの国民を飢え死にさせても核やミサイルを開発する国ほどではないが、全体的に貧しくとも、グロスの経済力があれば、上澄みを少しずつ掠め取り、宇宙に人を送ることもできる訳だ。が、どうして沿海の3億の豊かな中国人に少しずつお金を出してもらい、10億人の内陸中国の貧困を解消しないのか。解消できるほどの手を打てない「国家」とは何なのか？中国共産党指導部も多少はその点が気になるのか、西部大開発を呼号、内陸の農村部に人と資金を割き、貧困救済活動を続け、GENの現地での活動にも人を出している。胡錦濤 温家宝の新指導部は二人の経歴からも内陸部の振興に力を入れそうだが、地上の民に飲ませる水もない時に、宇宙に持って行く水はあるのであろうか。

#### 東京駅写真展こぼれ話・・・「黄土高原だより」から

10月26日から、東京駅丸の内北口ドームで、橋本紘二さん撮影の写真展「中国黄土高原～沙漠化する大地と人びと」が始まりました。朝の時間は、外国人が多かったんですね。全日を通してみても、大阪よりは、外国人の比率が、ずっと多い。とりわけ、中国人がめだちます。熱心にのぞきこんでいる3人組の若い男に、話しかけたんです。「中国人ですか？」「そうです」「どこからきたんですか？」「上海です」。その後手を振って写真全体を指しながら、「ものすごく、貧しい！」。その表情がちょっと悲しげだったんですね。おそらく、中国にいる時こういう農村の様子をたとえ写真でも、みたことは、なかったに違いありません。たとえみたことがあっても、今日のような印象をもたなかったでしょう。あんなところのヤツらが貧しいのは、ちゃんと働かないからだ、上海が豊かになったのは、俺たちのように、よく働いたからだ、という風に。よそごとだと思ったんでしょうね。これは、邪推じゃありません。大同にきた上海や南方の人から、そういう話を、何度も聞いてますから。ここが、東京だからよかったんです。ここから見直すと、上海も黄土高原の農村も、1つの国の、中国ですからね。国外に出た時って、自分の国や社会を考え直すことが多いでしょ。彼らにとっても、いい機会になったと思います。もっと感想をきかせてもらいたかったんですけど、ものすごく真剣な顔でみてるから、複雑な回答が返ってきて、私の語学力では、わかりっこない。それ以上、ジャマしないことにしました。

もう1組、中国人。若い女性はスラットとした大変な美人です。モデルさんか何かかな、と思いましたよ。つれの男はおつきの者といった雰囲気。はじめて東京に着いたんでしょうね。改札口をバックに彼女は、記念写真を撮らせました。男のほうが、反対向きでも撮りましょう、と言ったんですよ。改札口を出たすぐのところが私たちの写真展の会場ですから、「中国黄土高原～沙漠化する大地と人びと」という看板なんか、バックには入りませぬ。彼女はもう、明確に、意思表示しました。イヤ、だって。

京都を皮切りにこれまで、名古屋、大阪、広島、岡山で、同じ写真展を開催しました。JR各社のご協力で、駅コンコースをお借りしてきたんです。初日の26日は日曜日だから、忙しい人は少ないんでしょうけど、最初はトットと歩きながらチラッと写真をみるんです。

そして、最初の所まで戻って1枚1枚、ていねいに見直していく。みんな黙って、むずかしい顔。長いキャプションでも、立ち止まって、ちゃんと読むんです。企画を進めてくれたJR東日本企画の担当者が、「皆さん、関心が高いんですね」といって、びっくりしています。何人もの日本人が、「人工衛星をあげるより、こういう問題の解決に お金を使ったらいいのに……」と感想をもらします。たいていは、私の世代から上の男の人ですけど。悔しい思いも裏にはあるようです。環境を重視すべきだという思いは、私だっていっしょですけど、「国」とかのレベルの動きようは、どこの国も似たようなものでしょう。沙漠化防止や環境問題に資金を集中したって、経済にとっての見返りはそう大きくない。でも、そんなことを言われてられないほど、中国の環境問題は深刻化している。そういうことが、この写真展から伝わっていけばいいんですけど。ここ、丸の内北口の乗降客は、この国のありように影響を与える人が多いんでしょうから。(高見邦雄、要約🐞)

NPO 法人 緑の地球ネットワーク (GEN) TEL.06-6576-6181 FAX.06-6576-6182

E-mail [gentree@vc.kcom.ne.jp](mailto:gentree@vc.kcom.ne.jp) URL <http://member.nifty.ne.jp/gentree/>

### 三鷹クラブ51回定例懇談会・・・講師は40年入寮の滝澤エアドウ社長

三鷹クラブの11月第51回定例会の講師に、滝澤 進さん(北海道国際航空株式会社 エアドウ社長 昭和40年入寮)をお招きしました。航空関係の話は今回が初めてです。

滝澤さんは長野県上田出身。上田高校から東大(文 )に進みました。彼と私を含む幾人かは昭和40年から44年にかけて4年間を三鷹寮で過ごした仲間です。当時既に、北寮、南寮のモダンな新寮が聳えていたが、昔ながらの木造の東寮も健在。部屋は違ったが、我々二人は、絶望的に汚い東寮で学生生活を始めた。親しく付き合い始めたのは、教養学科国際関係論分科への進学が決まり、一部専門講義の受講が始まった第2学年後半からである。真面目に勉強するには最悪の環境の中で、彼はキチンと講義に出かけ、環境を言い訳にサボり勝ちの私を常に真っ当な方に軌道修正してくれた。その教養学科であるが、教養学部の専門過程と言う位置づけだから、殆どの方が本郷の学部に進学し、寮を出て行く中であって、我々は進学後も三鷹寮に残留し4年間を過ごした。教養学科の学業は、学生に幅広く好きな事をさせる建前で、大学院進学を前提にしたカリキュラムだったが、アカデミズムと無縁な進路を取る学生の為にも、社会科学系の基礎科目も取得可能で、官界実業界に進む学生も多かった。滝澤さんも私もシゴキで有名だった故 村野 孝先生(東京銀行調査部長)のゼミに入り、国際金融、経済の基礎を叩き込まれた。

運輸省入省後の彼は、豪州大使館出向も含め、東京航空局長を平成9年に退官するまで30年近く陸海空の運輸行政に携り、同年日本観光協会理事長に就任した。この間海外勤務が殆どの私とは4,5年に一度一杯遣りながら、お互いの近況を伝え合う程度で有ったが、新聞報道に拠れば“一貫して航空畑”を歩んだ由である。私の表現では、国際畑、航空畑、観光畑と言う事であろうか。今年1月、突然のニュースが仲間中を駆け巡った。“滝澤が火中の栗を拾った。激励会をしよう。”平成8年、地元北海道の期待を担って発足したエアドウ 北海道国際航空は、夢破れ倒産。平成14年より民事再生計画にのっとり再建途上に有る会社のトップに白羽の矢が当たってしまったのである。北海道に単身赴任し東奔西走、上京してもとんぼ返りの彼の予定は中々立てられず、いつのまにか激励会が講演依頼に変形してしまった。快く引き受けてくれた彼の声は予想外に明るい。再建から新たな飛躍への処方箋と確信を既にして作り上げたかのごとく感じる。

北海道、航空と言う特殊な話であるが、未曾有の社会経済の構造変化を迫られている日本の苦闘の縮図であり、航空、観光は今後の日本経済のリード役として期待される業界である。再建会社の現場の生々しい話と共に、彼の見識の一端を聞ければ幸いである。滝澤さんの激励を兼ねて、多数の幅広い方々の参加をお願いします。(文責 辰 紘)

日 時 平成15年11月17日(月) 18時30分～21時

会 場 学士会館本館320号室(千代田区神田錦町3-28 TEL:03-3292-5931)

講 師 滝澤 進 氏(北海道国際航空 - エア ドウ社長、昭和40年入寮)

演 題 「エア ドウ - 或る新規航空会社の挫折と新たな挑戦」

会 費 5,000円(会場費、夕食費等を含む)

申込先 平賀俊行 FAX 03-5297-5020 TEL 03-3256-0559 緑富士(株)

干場革治 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182 (有)ティエフネットワーク

e-mail: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

### どうして金にならないことをするんですか？

突然クライアントの一人にこう訊ねられる。情報仲介・営業コンサルタント業の傍ら、色々金にならないことをしているのが不思議らしい。●にすれば、究極の金にならない商売、「革命家」を志した青春時代以来、金にならないことをして食えれば「最高」なのだ。今更、革命でもないが、「類的存在」としての人間観と、安田講堂の壁に「一人は万人のために、万人は一人のために」と大書してあった行動原理の、青春の理想からすれば、NPO法人「緑の地球ネットワーク」の高見事務局長のように、誰からも感謝される活動をして食べていければ最高なのである。

しかし、高見君と違って贅肉がタツプリついてしまった●は、NPOの23万円の月給(3人の事務局長同額)ではやっていけないので、金にならないことに専心することもできず、金になること、ならないこと、両方取り混ぜてやらなければならない。クライアントの役に立って喜ばれればお金にもなるが、一方でクライアントのライバルを蹴落とすことになるので、誰にでも感謝される訳には行かないというのが、「金になること」の宿命でもある。

クライアントからすれば金にならないことは程ほどにして、もっと俺のために働けということになるかも知れないが、それは角を矯めて牛を殺すに等しい。仕事の性格上、色々な方々のお世話になるが、その人達からすると、専ら金になることに勤しむ●は、面白くない、手助けする価値のない、ただの金魚でしかない。色々なレベルで多少はパブリックな役に立つということで、応援してくれる訳だからである。

### 今や最後の戦いに！初めての不在者投票へ

今回の総選挙の投票前日から化学療法の5回戦、「最後の戦い」に挑むので、昨3日、生まれて初めて不在者投票をする。投票日の結果は点滴のチューブを引きずり、病院でというのは情けないのですが、来月からは入院しなくても済むことになります。

三鷹クラブの平賀代表が50年近く勤めた労働省関係の常勤職を離れ、非常勤の職を幾つか掛け持ちすることになったので、前の職場にあった三鷹クラブの荷物も●事務所で引き取り、いよいよ●事務所を潰す訳にも行かなくなりました。化学療法を取敢えず闘い終えて●も頑張りますので、今後とも、宜しく、お願いいたします。再見！